

## 茨城県猿島郡境町

### 町政は企業経営。新しい感覚で変革を進める

境町の景観 写真提供：境町



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第17回は、猿島郡境町です。

筑波銀行は、“地域復興支援プロジェクト『あゆみ』”のもと、境町との関連を強化し、信頼関係の醸成を進めています。境支店長の鈴木智が、境町長 橋本正裕氏、副町長 信田好則氏、秘書公室長 橋本健一氏、総務部長 榎場桂一氏、福祉部長 塚原栄一氏、境町観光協会会長 野口富太郎氏にお話をうかがいました。

#### ●「新しい感覚」での町政についてお聞かせ下さい。

平成26年度の一般会計の額から、境町を80億円規模の企業と考え、自由な発想と感覚で変革を行っています。

クックパッドと提携した学校給食のメニュー開発や、ソフトバンクによる割安な電話回線の導入等、様々な企業と協力し、境町にとって良いものはなんでも取り入れ、より良いまちづくりに生かしています。

また、今後の課題である人口減少問題に対応し、多くの人に境町に移り住んでもらうために、教育環境の整備、子育て政策の充実、医療環境の整備等を進めています。

そして、新たな住民の働く場と財源の確保のた

めに、企業誘致を積極的に進めていきます。平成27年度には圏央道が開通し、境古河ICが完成するため、境町の発展には大きな可能性があると考えています。

#### ●今後の展望を教えてください。

圏央道の開通によって、圏央道の圏内は都心に匹敵するほど利便性が向上すると考えられます。隣接する五霞町、坂東市、古河市等と連携し、県西地域全体の発展を目指していきたいです。その中でも教育、子育て、医療の施策をより充実させ、住民に選ばれる町になりたいと考えています。

また、圏央道の開通に併せて、境古河IC周辺の開発を進めており、すでに物流を中心に不動産等さまざまな業態から多数の問合せが来ています。



境古河IC周辺(平成26年3月撮影) 写真提供：北首都国道事務所



橋本町長



信田副町長



橋本室長



榎場部長



塚原部長



野口会長



鈴木支店長



日野自動車独身寮 写真提供:境町

日野自動車古河工場の稼働も大きなチャンスと捉えています。日野自動車の平成28年度末時点の従業員数は2,000人規模となり、その家族を含めると5,000人を超えます。さらに、関連企業の従業員とその家族を合わせると、およそ8,000人が古河工場に移ると考えられ、その8,000人のうち、1,000人位は何とか境町に住んでもらえるよう誘致していきたいと考えています。現在、境町には250人が入居する独身寮が完成しており、今後は更なる住居の確保と、転居者の増加を目指しています。

また、自主財源の確保に向けて、ふるさと納税の取組みも強化しています。去年は年間6万5千円だった寄付金が、仕組みを変えたところ、約1カ月で450万円の寄付があり、今後の更なる増加に期待しています。

**●境町の自慢の一品はなんですか。**

境町が特に売りだしたい名産品は、幻の豚肉「梅山豚<sup>メイサントン</sup>」と日本茶「さしま茶」です。

梅山豚は中国江蘇省に分布する原種豚で、その希少性と、豊かな味わい、上質な脂肪のおいしさによって「幻の豚肉」と称されています。境町の塚原牧場が梅山豚の国内唯一の生産者となっており、今後はどのように知名度を上げ、売りだしていくかが課題です。

さしま茶は茨城県を代表するブランド茶のひとつで、境町、古河市、坂東市、八千代町、常総市で栽培されています。深蒸し製法が主流で、個々



梅山豚 写真提供:株式会社塚原牧場



さしま茶(茶畑とペットボトル製品) 写真提供:境町



の生産者が茶樹の栽培から加工、販売まで一貫して行うことで、消費者に顔の見える販売を実践しています。

**●筑波銀行に期待することはありますか。**

町制60周年記念イベントや圏央道境古河IC開通記念イベント、そして、ふるさと納税への協力をお願いしたいと考えています。また、『あゆみ』の地域振興の取組みにも期待しています。